平成 27 年 2 月 9 日
豊　　島　　区

2 月期　区長月例記者会見

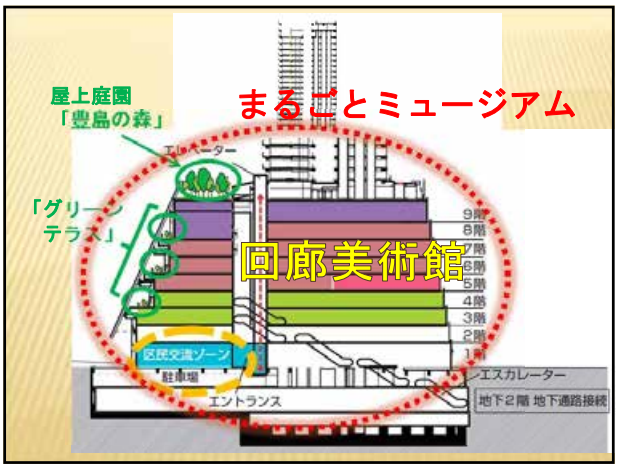
（1）　「アートオリンピア 2015　in　新庁舎まるごとミュージアム」
受賞者トロフィ完成披露

1. 審査概要説明
2. 高野之夫豊島区長挨拶
3. 山口伸廣実行委員長あいさつ
4. 最優秀賞トロフィ除幕
5. 宮田亮平審査委員長あいさつ
6. 記念撮影
7. 質疑応答

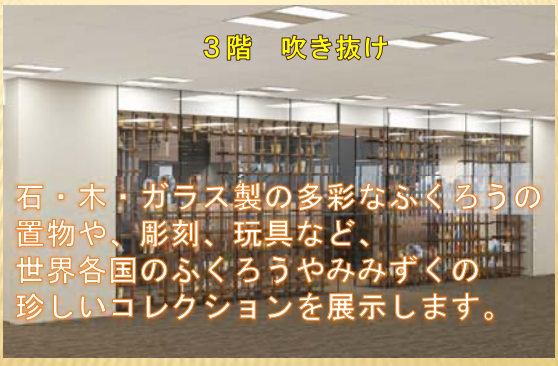
豊島区新庁舎

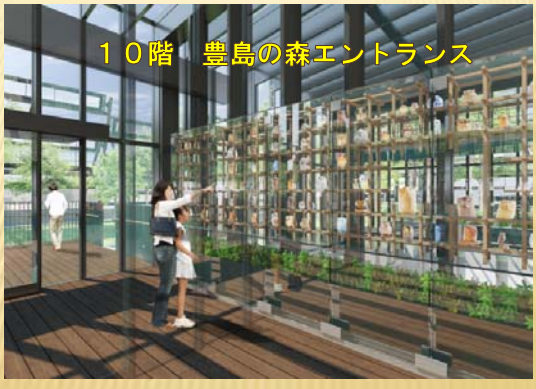
再開発建物「としまエコミューゼタウン」の
１階の一部と３階～９階が区役所庁舎です。

３月２３日　落成式
３月２４日～２９日
区民見学会
３月２８日・２９日
区民で祝う新庁舎落成
５月７日　開庁
６月１０日
アートオリンピア審査
６月１３日～２８日
アートオリンピア展覧会


まるごとミュージアム
屋上庭園
「豊島の森」
「グリーンテラス」
回廊美術館
区民交流ゾーン
駐車場
エントランス
エスカレーター
地下2階 地下通路接続

○屋上庭園
「豊島の森」





○アトリウム

○アトリウム

○としまセンタースクエア

約４５０㎡

○としまセンタースクエア

発表会や展示会など多目的に利用

○としまセンタースクエア

アートオリンピア展示のメイン会場

○３階～９階　事務室回廊

美術館・博物館にいるような雰囲気の中で
豊島区の文化芸術、自然などを
学ぶことができます。

各階の事務室が

大画面のタッチパネルモニターによる
「豊島区ナビ」

簡単な操作で、
誰でも豊島区の文化に触れることができます。

訪れてみたい
立ち寄ってみたい
そんな庁舎になります。

３月２３日　落成式
３月２４日～２９日
区民見学会
３月２８日・２９日
区民で祝う新庁舎落成
５月７日　開庁
６月１０日
アートオリンピア審査
６月１３日～２８日
アートオリンピア展覧会

豊島区 TOSHIMA CITY

Art Olympia International Open Art Competition

アートオリンピア 2015　概要

主　催：アートオリンピア実行委員会
共　催：財団法人山口アーティストサポート　人間国宝美術館
協　賛：豊島区
展　示：2015 年 6 月 13 日～28 日　　於・豊島区役所新庁舎・まるごとミュージアム

主　旨　　～　アートオリンピアから世界へ　～

この度、世界を舞台としたアートの公募展「アートオリンピア」を開催いたします。

アートオリンピアは、下記に掲げる 3 つのことをコンセプトとし、実施して参ります。1 つ目は「世界のアーティストの文化交流の場となるハブ(拠点)の形成」です。ほとんどのアーティストは、自身の生まれ育った国内でのみ活動することが多いのではないかと思われます。その中には評価が国内よりも海外でのほうが高くなるアーティストがいるかもしれません。私たちはそのようなアーティストを発見し、相応しい場所へ紹介する、アーティストのハブとしての役割を担います。

2 つ目は「世界のグローバルアーティストとなる人材の発掘」です。アートオリンピアは世界中から作品を公募し、審査員として国内外から美術関係者を招聘します。文化や歴史など、バックグラウンドが異なる国の審査員が作品を審査することで、世界を舞台に活躍できるグローバルアーティストを発掘し、送り出します。

3 つ目はコンセプトであり、また最終目標として「世界のアーティストによる次世代に向けた新たなアートの創出」を掲げます。私たちはアーティストの海外進出と文化交流を促し、アーティスト同士が互いに刺激し合うことで、これまで見たことのない新しい作品が生まれるのではないかと考えます。

アートオリンピアの活動が次世代に向けた新たなアートや美意識の創出に繋がれば、アートを愛する者としてこれに尽きる喜びはありません。

①世界のアーティストの文化交流の場となるハブ(拠点)の形成　(Hub)

②世界のグローバルアーティストとなる人材の発掘　(Excavation)

③世界のアーティストによる次世代に向けた新たなアートの創出　(Practice)

アートオリンピアの特徴

1.世界を舞台に作品を募集　→　東京、ニューヨーク、パリに募集拠点

2.世界の美術関係者による審査　→　アジア、アメリカ、ヨーロッパから招聘

3.公平・透明性のある審査　→　点数制による審査、最終審査の様子を公開

4.若手アーティストの支援　　→　学生部門の設置

5.チャレンジの場として　　→　隔年開催　次回は 2017 年

審査員

【東京拠点　審査員】

宮田　亮平　東京藝術大学学長

建畠　哲　　京都市立芸術大学学長、埼玉県立近代美術館館長

千住　博　　画　家

秋元　雄史　金沢 21 世紀美術館館長

南嶌　宏　　女子美術大学教授

【ニューヨーク拠点　審査員】

グレゴリー・アメノフ Gregory Amenoff　　アーティスト、コロンビア大学教授

ブレット・リットマン Brett Littman　　ドローイングセンター館長

エリック・シャイナー Eric C Shiner　　アンディ・ウォーホル美術館館長

ニコラス・トゥーロン Nicolas Touron　　アーティスト、スクールオブビジュアルアーツ教授

キャラ・バンダー・ウェグ Kara Vander Weg　　ガゴシアン・ギャラリーディレクター

【パリ拠点　審査員】

ジャン・ミシェル・アルベロラ　Jean-Michel Alberola　　アーティスト、パリボザール大学教授

セシル・デブレイ・アマール　Cecile Debray Amar　　ポンピドウセンター　キュレーター

曲　徳益　　Chu Teh-I　　アーティスト、国立台北芸術大学関渡美術館館長

池村　怜子　　Leiko Ikemura　　アーティスト、ベルリン芸術大学教授

アートオリンピア実行委員

山口　伸廣　　人間国宝美術館理事長(実行委員長)

北郷　悟　　東京藝術大学理事・教授

横山　勝樹　　女子美術大学学長

保科　豊巳　　東京藝術大学美術学部長・教授

矢部　良明　　人間国宝美術館館長

原　　真一　　東京藝術大学准教授

応募概要

【募集作品】

1. 平面作品　※油彩・アクリル・岩絵具・水彩・版画・ミクストメディア・グラフィック・コラージュ等

　　※立体、書、写真は不可　　※共同制作作品は不可

2. 本人制作で、他の公募展等に出品されていない作品

3. サイズ　縦 117cm×横 117cm(S50 号相当)　厚 10cm 以内　重さ 20kg までの作品

【応募資格】

1. 18 歳以上の男女

2. 国籍問わず

3. プロのアーティストを目指し、継続して制作を行う意思のある者

※　学生の応募者は、自動的に一般部門と学生部門にエントリーされる

【出品料】　（東京拠点への応募）

一　般：1 点 20,000 円（2 点 30,000 円）　　※1 人 2 点まで

学　生：1 点 10,000 円（2 点 15,000 円

審査方法

【一次審査】

東京・ニューヨーク・パリの 3 拠点で点数制にて実施

各拠点でそれぞれ一般 60 点、学生 20 点の作品を選定

【最終審査】

各拠点から計 240 点の作品を、最終審査会場の豊島区役所新庁舎・議場へ搬入

各拠点から招聘した審査員 14 名による国際的な審査員団を形成

点数制で評価し、受賞者を決定する

　※最終審査の模様は公開する

表 彰

【一般部門】 表彰者:約 180 名

1　位（金賞）:　1 名　トロフィー＋副賞賞金　$120,000

2　位（銀賞）:　1 名　トロフィー＋副賞賞金　＄30,000

3　位（銅賞）:　1 名　トロフィー＋副賞賞金　＄20,000

(副賞：東京会場で作品展示、氏名・作品のアート誌掲載)

4　位　：1 名　賞状＋副賞賞金　＄3,000

5　位　：1 名　賞状＋副賞賞金　＄2,000

6　位　：1 名　賞状＋副賞賞金　＄1,000

審査員・実行委員特別賞：約 15 名　賞状＋副賞賞金 ＄1,000

入　賞　：　40 名　賞状＋副賞賞金 ＄700

入　選　：約 120 名　賞状＋副賞賞金 ＄500

(副賞：東京会場で作品展示、氏名のアート誌掲載)

【学生部門】　表彰者：約 60 名

1　位（金賞）：1 名　トロフィー＋副賞賞金　＄20,000

(副賞：東京会場で作品展示、氏名・作品のアート誌掲載)

2　位（銀賞）：1 名　トロフィー＋副賞賞金　＄10,000

3　位（銅賞）：1 名　トロフィー＋副賞賞金　＄　5,000

4　位　：1 名　賞状＋副賞賞金　＄3,000

5　位　：1 名　賞状＋副賞賞金　＄2,000

6　位　：1 名　賞状＋副賞賞金　＄1,000

審査員・実行委員特別賞：約 15 名　賞状＋副賞賞金　＄　1,000

入　賞　：　10 名　賞状＋副賞賞金　＄700

入　選　：約 30 名　賞状＋副賞賞金　＄500

(副賞：東京会場で作品展示、氏名のアート誌掲載)

賞金･副賞総額:約 ＄500000　表彰者:約 240 名

スケジュール

【出品申込期間】

日　本：４月 17 日[金]まで

海　外：3 月 25 日[水]まで

【一次審査】

東　京　：2015 年 5 月末

海　外　：2015 年 4 月末

【最終審査】

2015 年 6 月 10 日（水）　　於・豊島区役所新庁舎　議場

【結果発表】

2015 年 6 月 10 日（水）

【展　覧　会】

2015 年 6 月 13 日（土）～28 日（日　於・豊島区役所新庁舎・まるごとミュージアム

応募要項の取得方法

①　ホームページの専用フォームよりダウンロード

②　事務局にメール、電話、ハガキにて請求

お問い合わせ先

アートオリンピア実行委員会事務局
〒330-0802
埼玉県さいたま市大宮区宮町 4-90-28
TEL：048－650－5544　　FAX：048-643-0799

E-mail：info@artolympia.jp
http://www.artolympia.jp/　　Twitter：@ArtOlympia

担当：早川、斉藤、市川

アートオリンピア 2015　審査員略歴

〈東京拠点〉

宮田　亮平（みやた　りょうへい）

金工作家、2005 年 12 月より東京藝術大学学長。

1972 年に東京藝術大学大学院 美術研究科 工芸専門課程(鍛金専攻)を修了。イルカをモチーフとした「シュプリンゲン」シリーズなどの作品で、「宮田亮平展」（個展）をはじめとして、国内外で多数の展覧会に参加。「日展」内閣総理大臣賞や、「日本現代工芸美術展」内閣総理大臣賞など数々の賞を受賞し、2011 年度日本芸術院賞を受賞。

建畠　晢（たてはた　あきら）

京都市立芸術大学学長、埼玉県立近代美術館館長。

1972 年に早稲田大学文学部卒業後、多摩美術大学教授，国立国際美術館長などを経て，2011 年より現職。専門は近現代美術。1990 年，1993 年のヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナー，横浜トリエンナーレ 2001，あいちトリエンナーレ 2010 のアーティステイック・ディレクターなどを務める。アジアの近現代美術の企画にも多数参画。詩人としても活躍し，1991 年に歴程新鋭賞，2005 年に高見順賞を受賞，2013 年に萩原朔太郎賞を受賞。

千住　博（せんじゅ　ひろし）

画　家。

代表作のウォーターフォールは 1995 年ヴェネツィア・ビエンナーレ絵画部門で名誉賞を受賞。

2007 年より 2013 年 3 月まで京都造形芸術大学学長を務めた。現在京都造形芸術大学教授。同大学付属康耀堂美術館館長。京都造形芸術大学・東北芸術工科大学共同教育機構「藝術学舎」学舎長、同機構「千住博 ザ・スーパー・アートスクール」校長。ヴァン・クリーフ＆アーペル芸術学校（レコール）マスターズコミッティー委員。公益財団法人徳川ミュージアム相談役。

秋元　雄史（あきもと　ゆうじ）

金沢 21 世紀美術館館長。

東京芸術大学美術学部卒業。 1991 年～2006 年　ベネッセアートサイト直島の企画、運営に携わる。主な仕事は「地中美術館」「直島・家プロジェクト」他、数々のサイトシペシフィックワークのディレクションを手がけた。2007 年から現職。2008 年「金沢アートプラットホーム 2008」、第 1 回（2010 年）、第 2 回（2013 年）「金沢・世界工芸トリエンナーレ」の総合ディレクター。また 2012 年「工芸未来派」の企画を通して現代美術の視点から工芸を紹介。2013 年「柿沼康二書の道　ぱーっ」展を実施し、書へも興味の幅を広げている。東京芸術大学客員教授、秋田公立美術大学客員教授。

南嶌　宏（みなみしま　ひろし）

女子美術大学 芸術学部アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域教授。

筑波大学芸術専門学群芸術学専攻卒業 、カルティエ現代美術財団の奨学生としてパリへ留学。 全国美術館会議理事、国際美術評論家連盟理事、熊本市現代美術館長などを歴任。 第 53 回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナー。プラハ・トリエンナーレ 2008 キュレーター。 2009 年、第 3 回西洋美術振興財団学術賞受賞。著書に「豚と福音」（七賢出版）がある。

〈ニューヨーク拠点〉

Gregory Amenoff　グレゴリー・アメノフ

画家、コロンビア大学教授。

アメリカン・アカデミー・オブ・アーツ・アンド・レターズ、ナショナル・エンドウメント・フォー・ジ・アーツ基金、グッゲンハイム財団を初めとする数々の賞を受賞。アメリカ国内やヨーロッパの美術館やギャラリーにて 50 回を超える個展を開催し、氏の作品はホイットニー美術館、ニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館等の 30 を超える美術館に所蔵されている。2001 年から 2005 年までナショナル・アカデミー・オブ・デザインの学長を務め、コロンビア大学では現在まで 20 年教鞭を執っており、2007 年から 2013 年までは同大学芸術学部視覚部門長も務める。

Brett Littman　ブレット・リットマン

ドローイングセンター館長。

2003年より2007年までニューヨーク近代美術館(MoMA)の別館である MoMA PS1コンテンポラリー・アート・センターの副所長を務め、在職中には5つの部門を管理しワーム・アップ・サマー・DJ フェスティバルやオンラインのアートラジオステーションも監督した。手がけた展覧会には2010 年国際美術評論家連盟全米支部の非営利ギャラリー部門の最優秀賞に選ばれた「レオン・ゴーラブ展: Live & Die Like a Lion?」などがある。

Eric Shiner　エリック・シャイナー

アンディ・ウォーホル美術館館長。

日本現代美術の研究者であり、アンディ・ウォーホル研究の第一人者でもある。2012 年には 14 名の有力な現代アーティストたちがピッツバーグを本拠地とした工場をテーマに作品を製作するという画期的な展覧会「ファクトリー・ダイレクト：ピッツバーグ」展を開催。 氏の指導のもとで実現した巡回展「アンディ・ウォーホル展：永遠の 15 分」はアジアにおいては過去最大規模の展示となった。

Nicolas Touron　ニコラス　トゥーロン

画家、スクール・オブ・ビジュアルアーツ教授。

フランス生まれ。2000 年にオランダ、リートフェルトアートアカデミーにて視聴覚/彫刻分野の美術学士号を取得。2001 年名誉あるフルブライト奨学生に選ばれニューヨーク、スクール・オブ・ヴィジュアルアーツの修士課程に進学。修士号を取得後、デッサン、陶芸、彫刻の教授として同大学勤務。日本、米国、ドイツ、フランス、スペイン、イタリア、オランダ、トルコにて個展を開催。

Kara Vander Weg bio　キャラ・ヴァンダー・ウェグ

ガゴーシアン・ギャラリー・ニューヨークのディレクター。

ノースウエスタン大学にて学士号を、ウィリアムズ大学にて修士号を取得。専門領域は美術史。ニューヨークのジェームス・コーハン・ギャラリーやグッゲンハイム美術館での勤務を経て現職。現在までの 8 年間で、同ギャラリーにて手がけた展覧会は 12 回以上。リチャード・アヴェドン、ジョン・チェンバレン、ウォルター・デ・マリア、マイケル・ハイザー、ニール・ジェニー、マーク・タンジーなど著名なアーティストのマネージメントを専門とする。 アート・オン・ペーパー誌やコンテンポラリー誌等のアート誌において記事も執筆も行う。

〈パリ拠点〉

Jean-Michel Alberola　ジャン・ミシェル・アルベロラ

画家、パリ高等美術学校(ボーザール)教授。

1953 年サイダ(アルジェリア)生まれ。パリ在住。1982 年よりダニエル・タンプロン画廊に所属。1991 年よりパリ高等美術学校(ボーザール)教授。画家・彫刻家であると同時に映画監督・書籍・工芸作家でもあり、絵画・書き言葉・話し言葉を繋ぐ芸術作品を目指している。フランスをはじめ世界各国の美術館や画廊で彼の作品に接する事が出来る。2015 年にパレ・ド・トーキョー（パリ）にて大きな回顧展が催される。

Cecile Debray Amar　セシル・ドゥブレイ・アマー

ポンピドゥーセンター内、国立近代美術館近代コレクション担当学芸員。

ヌーボーレアリズム、ルシアン　フルード、マティス・セザンヌ・ピカソなど数々の展覧会のキュレーション、ルーブル学院（Ecole du Louvre）で教鞭をとる傍ら、美術史家としてフォーヴィズムなど前衛主義に関する論文や書籍を発表している。今年ポンピドゥーセンターで開催中の「マルセル　デュシャン、絵画そのもの展」を企画。現在は 2016 年にローマとウィーンを巡回する「バルテュス展」のリサーチをすすめている。

曲　徳益　　Chu Teh-I

画家、國立臺北藝術大學關渡美術館館長。

國立臺北藝術大學關渡美術館の設立者で館長を務め、同大学美術学部の教授でもある。フランス・パリのエコール・デ・ボザール（国立高等美術学校）を卒業し、中華民国（台湾）行政院文化部と國家文化藝術基金會のビジュアルアーツ部門のアドバイザーでもある。これまで数多くのパブリックアートプロジェクトに関わり、アートバンク・イン・台湾（藝術銀行 TAIWAN）の設立にも関わった。國立台灣美術館と臺北市立美術館の委員会メンバーでもある。

イケムラレイコ　池村玲子

アーティスト、ベルリン芸術大学教授。

三重県津市生まれ、ドイツ・ケルン在住の画家で彫刻家。1991 年よりベルリン芸術大学（UdK）教授。1972 年にスペインに渡り、セビリア美術大学に学ぶ。現在はベルリンとケルンを拠点に活動を行う。2009 年にアウグスト・マッケ賞を受賞。作品はポンピドーセンター、バーゼル市立美術館、ベルン美術館他、各国美術館で展示されている。2013 年にはカールスルーエ州立美術館（ドイツ）で個展を行い、ヨーロッパと日本を中心に高く評価されている。